

小学校図画工作科における映像表現の カリキュラム開発

1 はじめに

なぜ、今、小学生に映像なのか。映画やアニメ、CM など、現代の子どもたちは普段から数多くの映像作品に接している。映像は実はとても身近な表現媒体である。

「表現」として考えたとき、映像は、圧倒的な伝える力を持っている。映像は人の心をうごかし、人の心を感じさせる力を持っている。映像という表現手段を、子どもたちの表現手段として使ってみたい。

「鑑賞」として考えてみたときに、ほとんどの家庭にテレビがあり、子どもたちは毎日、映像を見て育っている現代社会において、映像を鑑賞する力を身につけることは、とても大切なことである。

「鑑賞」する力を高めるためにも、映像の作り手となることは、重要である。

2 研究の目的

今まで小学生の映像実践というとクレイアニメなどがあるが、代表者：尾池佳子（八王子市立下柚木小学校）は、松下教育研究財団第31回実践研究助成を受け、「つたえようアニメで卒業メッセージ」で小学校6年生でのクレイアニメ製作*1について研究した。また、以前、小学校4、5年生で手描きの絵を映像編集ソフトで動かすパラパラアニメーション制作も行ってきた。これらの研究成果は、市内小中教員向けの夏休みの研修会や、全国発表するなどしたりして普及を図ったが、使用する機材が高価、教員に編集技術が必要など、敷居が高く広がらなかった。このことから、もっと取り組みやすい映像の授業を模索しはじめた。

平成23年度東京都図画工作研究大会、南多摩大会（12月16日、於：多摩市立豊ヶ丘小学校＝以後都図研南多摩大会という）が開催され八王子市授業4グループ（6、7ブロック）では、デジタルカメラのムービー機能を使った、小学校3年生の映像表現＝デジカメムービーを提案した。これは、高価な機材を必要とせず、編集を行わないのでPCに不慣れな教員でも取り組みやすい。南多摩大会提案に向けて、5月13日鎌水小学校4年1組、6月15日鎌水小学校4年3組、9月28日中野北小学校3年1組、11月16日由木西小学校3年1組と4回の検証授業を行った。検証授業および大会当日授業については、大会発表ということで、指導助言者の武蔵野美術大学・三澤一実教授にご配慮頂き、他の団体に優先してデジタルカメラを16～34台の貸与を受けることができた。

大会発表は終わったが、まだ研究半ばであり、今後も継続研究したいと考えた。さらに、次の学習指導要領改訂を視野に入れ、「映像表現のカリキュラム開発」に発展させ、図画工作科（以後、図工という）からのメディア活用能力育成にも迫りたいと考えた。

3 研究の方法および内容

発達段階に応じた一般化しやすい様々な映像表現の題材を開発する実践研究を、本研究に参加している八王子市内 16 校の図工専科が行う。全 25 学級の大規模校から、各学年単学級の小規模校まで、また実践する図工専科も、新規採用の若手から、まもなく退職のベテランまで幅広い年齢層とメディア活用能力の教員が揃っており、まさに多様な教育環境の様々な学校で授業実践研究を行うことができる。この利点を生かして、低中高学年別に、発達段階に応じた一般化しやすい様々な映像表現の題材を開発することが可能である。

- (1) デジカメムービーの授業実践を、高学年向きに進化させ検証する。
- (2) 低、中学年では、発達段階に応じた映像表現につながる題材を考え授業実践する。
- (3) (1)、(2) の授業実践結果をもとに、映像カリキュラム第一案を作成する。

4 研究の経過

(1) デジカメのムービー機能を使った映像表現「うごきだしたてぶくろくん」

①題材について（平成 23 年度からの経過）

平成 23 年 2 月 19 日、所沢市教育センター研究員発表会で、小学校 5 年生のデジカメムービーを活用した「作品紹介」⁽¹⁾を知った。内容は、子どもが自身の作品を撮影しながら製作意図を語るものである。

これをヒントに、子どもたちが自分の作品を主人公にした「30 秒デジカメムービー＝うごきだすはなしだす 30 秒間なりきりムービー」を撮影する映像作品の製作と鑑賞の授業を考えた。動画機能を使うことで簡単に撮影・鑑賞を行うことができるようになった。デジタルカメラという、どこの家庭にでもある道具を用いることにより、子どもたちにも映像表現を身近に感じてほしいと考えた。そこから、子どもたちが自分の木工作品を主人公に「30 秒デジカメムービー」を撮影するという、映像作品の製作と鑑賞の授業が生まれたのである。

これには、以下のような良さがあると考えた。今まで小学生の動画の実践としてあった「クレイアニメーション」や「パラパラアニメ」と異なり、編集作業をしないので PC に慣れない教員も指導できる。さらに、その場で作った仲間たちと一緒に鑑賞し合ったり、作品を確認し再度修正し取り直したり、記録しておいて別の場所で他学級、他学年、他校、保護者、地域・・・など多くの人たちと鑑賞し合ったりすることも可能である。YouTube での作品発表も視野に入れられる。作品を介して、様々な人々との交流、学び合いへの発展の可能性がある。

都図研南多摩大会の結果、以下の点に課題があった。子どもたちは自分たちの世界に入り込みすぎてしまい、見せることを意識して撮影できない場面が見られた。これは、中学年の発達段階に起因するものと考えられる。高学年であれば、アングルなど、より映像表現としての工夫が見られるのではないかと感じた。また、製作した木っ端を使った人形を手を持って撮影したため、画面に自分の手が映ってしまうことで映像作品として見づらいものになってしまったことも改善したいと思った。そこで平成 24 年度は、高学年で、そして、手が映り込むことで見づらくなならない「うごきだしたてぶくろくん」を考え実践した。

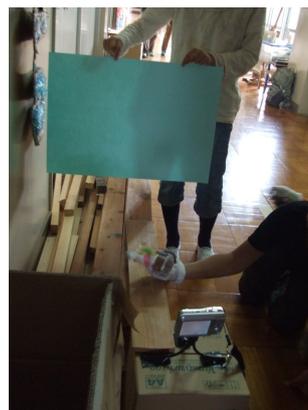
②実践内容

自分の手にはめる手袋に描いたキャラクター＝“てぶくろくん”を登場させる約10秒の映像作品をデジタルカメラのムービー機能を使って撮影し、相互にそれぞれの作品を鑑賞する。デジタルカメラ、三脚などを助成金で購入し撮影に使用した。

③成果と課題

成果 高学年の授業にしたことで、見る人を意識した撮影ができた。また、手を撮影しても違和感の無い題材設定、10秒という短さ、サイレントムービーにしたこと（ふきだしも使わない）という、削ぎ落とされた条件の中での撮影は、格段に作品の質を向上させた。

【画像1撮影のようす】



【画像2てぶくろくんの作品例】

課題 映像作品の見せ方に課題が残った。撮影途中の鑑賞の時に、どのようなコメントを教員がするかが、その後の作品の善し悪しに大きく影響するということが解った。



(2) デジカメムービー以外の低、中、高学年の映像表現

実践した中から、いくつか紹介する。

(2) -1 クシャクシャマン～第2原図用紙を使って～

①実践内容

八王子市立松が谷小学校1年生18名

第2原図用紙を材料に工夫して作った「クシャクシャマン」を登場させる20秒の映像作品をビデオカメラを使って撮影し、相互に鑑賞し合う。

②成果と課題

成果 自分の製作した作品が、動きやストーリーなどを考えた映像として映し出されるおもしろさや喜びを味わうことができた。1年生でも、デジタルカメラを使っての映像表現が可能であると感じた。

課題 1年生が、日常的に自分自身でデジカメ機能を使いながら映像表現ができるような環境を整え、指導技能を身につける必要を感じた。

(2) -2 光で遊ぼう

①実践内容

八王子市立宮上小学校3年生41名

懐中電灯によってカラーセロハンや色水の入った透明容器などを通してできた陰をトレーシングペーパーに映すことで作品ができることを知り、光と影の美しさを生かした写真作品を製作する。

②成果と課題

成果 デジタルカメラをもたせたことで、構図など画面構成を意識するようになった。3年生には

適当な題材である。

課題 1年生が、日常的に自分自身でデジカメ機能を使いながら映像表現ができるような環境を整え、指導技能を身につける必要を感じた。

【画像2わりピン人形】

(2) -3 楽しく動くわりピン人形

①実践内容

八王子市立下柚木小学校3年生81名

白ボール紙を使い頭、手、脚、足などのパーツを作り、わりピンでつないで動く人形を作る。人形は、人の形をしたものに限らず動物、飛行機、恐竜、植物等々、様々な形を製作した。作った人形は、ビデオカメラをPCに接続し



C R A Y T O W N (クレイアニメーション撮影ソフト・CELSYS) を使って、少しずつ動かしながらコマ撮り撮影した。鑑賞会を開き、相互に作品を鑑賞し合った他、保護者会でも上映した。

②成果と課題

成果 作った作品が画面の中で、あたかも生きているように動くことで、作品製作の意欲が高まった。また、掲示しただけでは解らない、パーツの動きが動画にすることで、よく解るようになった。

課題 一台のPCとビデオカメラで、クラス全員分の撮影を行うのは、時間がかかった。撮影はデジタルカメラで行い、PCでつないで見られるようにする方法もあるが、3年生が、自分たちでそれを行うのは難しいかもしれない。

(2) -4 片倉台こびと図鑑

①実践内容

八王子市立片倉台小学校4年生23名

紙粘土を材料に工夫して作った「片倉台小学校に生息するこびと」を生息している場所でデジカメを使って撮影し、一冊の図鑑にすることで、相互にそれぞれの作品を鑑賞する。

②成果と課題

成果 本当にそこに生息し発見したかのように見える、工夫のある作品が多くできた。

課題 静止画表現だけでなく、動画表現にしてみても良かったかもしれない。

(2) -5 モデルになろう

①実践内容

八王子市立由木中央小学校4年生96名

学校内や校庭、体育館などで

②成果と課題

成果 静止画ということで、データ管理が手軽に行えた。高学年になると、自分一人で写真のモデルになることに抵抗が出てくる子供が多いので、中学年に向いていると感じた。

課題 今回は、2月に実施したため寒かった。気候の良い春に行えると良い。テーマを“動き”、“大

好き”、“4年生”等とグループごとに設けると変化があり、表現する楽しさが広がると感じた。

(2) -6 はっぴょう名人を使った2コマアニメ

①実践内容

八王子市立下柚木小学校5年生74名

2枚の紙に描いた絵を、プレゼンテーションソフトを使って、交互にループで動かすことでアニメーションにする。効果音、音楽、アフレコのいずれかをつける。手書きの絵をPCにとりこむために、スキャンナップを使ったことで時間が短縮された。

②成果と課題

成果 どこの学校のパソコン室にもあるプレゼンテーションソフトを使うことで、どこの学校でも実践可能である。編集をしないので、短時間での実践が可能である。2枚という最小限の枚数で制作したことで、子どもたちは、アニメーションの原理を理解しやすかったように感じた。2枚で動きを表現できるようくふうしていた。効果音、BGM、アフレコを使って、より伝わりやすい作品になるよう工夫できた子どももいた。

課題 環境面での課題としては、プレゼンテーションソフトを使ったため、作品を持ち帰ったり、家庭のTVで再生、鑑賞したりすることが難しい点がある。

また、指導上の課題としては、色鉛筆で彩色させたため、不鮮明な印象の作品が多く見られた。彩色にはマーカーを使用させたほうが良かったかもしれない。導入時の製作方法の提示の工夫や、アイデアスケッチの段階での個別指導の徹底は必要である。

(3) 映像カリキュラム第1案

助成金で購入したデジタルカメラの順番待ちと、図工専科が関わる11月の校内作品展や、1月の八王子市立小中学校合同作品展、2月の東京都公立学校美術展覧会など業務のため、各校での授業実践の実施が遅れ平成25年3月末までずれこんだ。そのため、映像カリキュラム第1案の作成は4~5月になる予定である。

5 研究の成果と課題

成果 昨年度は、武蔵野美術大学から貸与して頂いたデジタルカメラや、各校から持ち寄った三脚などを助成金で購入できたことで、デジタルカメラを使った図工の授業実践が多くの学校で可能になった。

低、中、高学年で授業実践ができた。静止画像でも映像表現の学びが可能であることが解った。また、どのような題材が、どの発達段階に向いているのかも、解ってきた。

課題 参加校の数が多かったために、助成金で購入したデジタルカメラや三脚では台数が足りず、参加校すべてでのデジタルカメラでの授業実践は、できなかった。

実践で製作させた動画の長さが10~30秒と幅があったが、どのくらいの長さが適切なのか、今後の検討課題である。

6 おわりに

(1) 今後の研究方針

八王子市内 70 校のうち また、八王子市小学校教育研究会図画工作部の一斉研修会などを活用して、広く八王子市全体に継続的に研究成果を発信する。全国発表も機会を設け普及に努める。

(2) 今後の研究計画

平成 24 年度の授業実践結果をもとに、映像カリキュラム第一案を作成する。平成 25 年度は、映像カリキュラム第一案をもとに、各校で授業実践を行い検証し、映像カリキュラム第二案を作成する計画である。研究結果は、授業実践記録、および児童作品などを DVD にし、報告書とともに市内小学校を始め、東京都教育委員会、都内区市町村教育委員会、東京都図画工作研究会へ配布する予定である。

*1 平成 20 年告示学習指導要領より、図画工作科では、中学校技術科への繋がりを視野に入れ、作品せいさくは、制作ではなく、製作を使うようになった。

八王子市立小学校教育研究会図画工作部・授業 4 グループ参加者（所属校）

代表：尾池佳子（下柚木小）

松野一也（中野北）、梅田勝裕（松が谷）、福地里美（片倉台）、森山暁生（高嶺）、山崎由佳（宮上）、吉崎達也（由木中央）、関口智恵（鹿島）、栗原薫（中山）、和田優子（秋葉台）、傍島薫（別所）、原田友美（川口）、大木紅葉（館）、高橋晶絵（清水）、菅千尋（由木西）、穴澤智子（浅川小）

助言者：三澤一実（武蔵野美術大学）=現行学習指導要領解説図画工作編作成協力者

参考文献

- (1) 埼玉県所沢市教育委員会平成 23 年度研究員研究
小学校図画工作科「自分をつくる」（2010）

<http://www.tokorozawa-stm.ed.jp/center/kenkyuu/jisyuken.html>

- (2) 東京都図画工作研究大会第 50 回南多摩大会
研究紀要（2011）
- (3) 東京都図画工作研究大会第 50 回南多摩大会
研究報告書（2011）
- (4) 2012PC カンファレンス
小学校図画工作科における映像表現のカリキュラム開発（2012）